

平成 27 年度
NPO 法人ハートセービングプロジェクト
第 8 期 年次総会

会場 NPO 法人ハートセービングプロジェクト会議室
住所 東京都世田谷区下馬五丁目 17 番 12 号
電話 03 (3487) 9006
日時 平成 28 年 4 月 17 日 (日) 午後 12 時～1 時半

議事

- 議案 1. 平成 27 年度事業報告
- 議案 2. 平成 27 年度活動計算書報告
- 議案 3. 平成 28 年度事業計画
- 議案 4. 平成 28 年度活動予算
- 議案 5. 就業規則 (案) について
- 議案 6. 情報公開規程 (案) について
- 議案 7. 役員報酬規程 (案) について
- 議案 8. 定款変更 (案) について

議案 5 から 8 の資料と各種決算書は現在ハートセービングプロジェクトのホームページで公開していますので、恐れ入りますがそちらからお読みいただけますよう宜しくお願い致します。

14 ページに次年度の渡航治療活動に参加される方々への注意点がございますので、活動参加をご検討の方は是非ご一読ください。

平成 27 年度事業報告総括

2001 年に初めてモンゴルへ渡航して先天性心疾患児の診断と治療を行ってから 2016 年で 15 年を数えます。2015 年 5 月の活動の途中では、診断・治療カテーテル件数合計 500 例という区切りを迎えました。

活動開始当時から現地で我々が手を組んでやってまいりましたモンゴル国立母子保健センターに一昨年、心臓カテーテル・血管造影室が完成したことにより、さまざまな面でこれまでと別次元の様相と展開を迎える結果になっていることを痛感した 2015 年でした。

現地医師らが初歩的な心カテーテルを実施できるまで、あと数歩のところまで来ているといえるかもしれません。ただ、医療の進歩と同時に、保険制度や病院の枠組みなどが出来上がっていかねば現実の診療に結びついていきません。現地でのこうした論議が具体化するのを見守りつつ、われわれはこれまで同様に現地医療の向上と患者治療を両輪の目標として掲げて活動を進めてまいりたいと改めて決意しております。

平成 27 年度にハートセービングプロジェクト（以下「HSP」）が実施いたしました事業は以下の 4 つです。

モンゴル渡航治療支援事業

教育事業

救急車輸送事業

広報事業

平成 27 年度は 2 回 3 か所のモンゴル地方検診と 2 回の首都ウランバートルでの小児の先天性心疾患患者の検診・治療活動を実施いたしました。地方検診は 5 月にスフバートル県とゴビスンベル県、9 月にダルハンオール県で実施しました。検診の様子につきましては、後ほどの各事業の内容と成果をご覧ください。

首都ウランバートルでの活動では、拠点病院であるモンゴル国立母子保健センターでの検診と心臓カテーテル治療、国立第三病院での心臓カテーテル治療を実施しながら、現地医師の教育に努めました。2 病院にはモンゴルでの小児および成人の先天性心疾患に対するカテーテル治療の自立的な発展へのアドバイスをし、治療システムの構築へ向けて積極的にハートセービングプロジェクトとしての意思表示をいたしました。

5 月のモンゴル渡航治療活動実施中には、活動開始から通算で 500 例目となる心臓カテーテルを実施することができました。

救急車輸送事業につきましては後ほどの各事業の内容と成果をご覧ください。

平成 26 年度、以上のように事業を継続して実施できましたのも、草の根で支援してくださいました日本とモンゴルの市民の方々のおかげです。今後も益々のご支援を賜ることができますよう、真摯に活動を続けてまいります所存です。

理事長
羽根田 紀幸

1. モンゴル渡航治療支援活動

○ 5 月モンゴル渡航治療支援事業（スフバートル県・ゴビスンベル県地方検診班、カテ第 1 班）

日程＝4 月 27 日～5 月 8 日

渡航人員＝小児循環器医師 10 人、循環器内科医 1 人、麻酔科医師 3 人、臨床工学士 1 人、学生ボランティア 2 人、ジャーナリスト 1 人、事務局 1 人 合計 19 人

うち医師 4 人、臨床工学士 1 人、ジャーナリスト 1 人が、現地協力 NPO である Zurkh Khamagaalakh Tusul（以下 HSP モンゴル）のボランティア 2 人、国立母子保健センター医師と共に 3 泊 4 日でスフバートル県バルーンウルトにて地方検診を実施し、その後ジャーナリスト 1 人を除いてそのまま翌日から 1 泊 2 日でゴビスンベル県チョイルにて地方検診を実施。

医師 10 人、事務局 1 人、学生ボランティア 2 人はカテ第 1 班として国立母子保健センターと国立第三病院にて検診・治療活動を実施。

内容と成果＝

（1） 地方検診

① スフバートル県バルーンウルト



スフバートル県での検診メンバー（日本・モンゴル）

スフバートル県は中国と国境を接する、モンゴルの東端の県です。モンゴル到着翌日の 4 月 28 日、首都ウランバートルからおよそ 500km の距離にあるスフバートル県バルーンウルトまでほぼ 1 日をかけて車で移動し、翌 2 日間、県立中央病院で 252 人の検診を実施しました。

来院者のうち先天性心疾患の患者さんは 64 人。11 月実施予定のカテーテル治療対象になる患者さんは 0 人でしたが、外科手術が必要な患者さんとその保護者の方々には容態を説明し、今後についてのアドバイスをを行いました。



滞在費は 2014 年 11 月に HSP によってバルーン治療を受けた娘さん（9 才）の母親であるバトルトゥーヤさんが引き受けてくださいました。バトルトゥーヤさんは検診に同行し、自らの運転手も引き受けてくれました。母子保健センターからはバトウンドラル医師、HSP モンゴルからはバドラル君とウルカ君が同行しました。

② ゴビスンベル県チョイル

ゴビスンベル県チョイルはウランバートルから約 250km、北京発モスクワ行きの国際列車でウランバートルのひとつ手前の停車駅になります。スフバートル県から戻った翌日の 5 月 2 日に現地へ車で赴き、その日の午後から翌日の昼までの約 1 日間の検診活動を行いました。全部で 197 人の検診を実施しましたが重症は 0 人、11 月のカテーテル治療対象者も 0 人という結果でした。ここで検診は、HSP モンゴルが患者さんをあらかじめ受け付けて、時間ごとの整理券を配布するなど工夫を施したので、患者さんの待ち時間が大変少なく、また検診自体もスムーズに行うことができました。母子保健センターからはワンチンドルジ医師、現地 NPO からはバドラル君とウルカ君が同行しました。ゴビスンベル県での滞在費等の旅費交通費は、HSP モンゴルのメンバーが出し合いました。

(2)カテ第 1 班

国立母子保健センター内に完成した「心臓カテーテル・血管造影室」にはシーメンス社製のアンギオなどの最新鋭設備が完備。2015 年カテ第 1 班はこの 5 月、初めてここを使うことになりました。国立母子保健センターにはほかにも胎児エコー診断ができる設備も整いました。こうした大規模な設備投資の背景は、2011 年をピークとしたモンゴルの右肩上がりの経済成長があります。直接的要因としては、モンゴル厚生省が出生時死亡率のさらなる低下と、先天性心疾患の胎児段階からの早期発見・早期治療を促進するという指針を示したことが挙げられます。

一方、これまで国立母子保健センターと同様に HSP と活動を共にしてきた国立第三病院にも以前から診察している患者さんがいますので、最終日は国立第三病院での治療にあてることになりました。

5 月のカテ第 1 班は 164 件の心エコー診断を実施。治療は動脈管開存 (PDA) が 17 人、肺動脈弁狭窄 (PS) が 4 人の計 21 人、診断カテーテル 4 例という結果でした。

5 月の活動中に、2001 年にこの活動を開始してから数えて治療カテーテルと診断カテーテルの合計が 500 例という節目を迎えることができました。この 500 例めは、富田英副理事長が開発し、(株)東海メディカルプロダクツが製品化した小児向けのバルーンを初めてモンゴル国内で使用しての治療となりました。



5月2日、羽根田紀幸理事長と富田英副理事長は、モンゴル国シレクタンバ厚生大臣を表敬訪問しました。5月渡航の期間中、気温がマイナス続きで降雪もあり、大変寒かったせいか体調を崩す人が多く出ました。また現地では、はしかが大流行しており、院内感染を防ぐためのさまざまな処置が施されました。

5月5日の夜は、カテーテル合計500例を記念して、HSPモンゴルがお祝いの会を開き、2001年に活動開始のきっかけをつくったエンフサイハン医師の息子さんであるBoyaさんも出席しました。

活動開始の2001年から2015年までの各年度で治療を受けたお子さんとその親御さん、HSPの診察をきっかけに日本での心臓病の外科手術を経て健康を取り戻したアムル君も集まり、すっかり元気になった姿を披露。また横綱日馬富士関からはHSPへのお礼のビデオレターが届きました。HSPモンゴルのメンバーで馬頭琴演奏家であるボルドバートルさんとそのお弟子さんたちは馬頭琴演奏で場を盛り上げるなど、大変感動的な集いでした。



日本の子どもたちが作った折り鶴を配る羽根田理事長

500例めの節目となった患者さんと富田副理事長



2015年5月の患者さん、その親御さんとHSPスタッフ一同

○ 8月モンゴル渡航治療支援事業（臨時の実施）

渡航人員＝理事長、事務局長、事務局 計3人

モンゴルで大統領認定のNPO団体となったことを受けて大統領夫人から団体についての説明が聞きたいとのリクエストを受け、これまでの活動報告と今後の支援をお願いするべくウランバートルを訪ねました。その際、国立母子保健センターを訪ねたところ急きょ2名の患児さんの診察依頼を受け、心エコー検診2件と肺動脈狭窄症のバルーン治療1例を実施しました。

○ 9月モンゴル渡航治療支援事業（ダルハンオール県地方検診班）

渡航人員＝小児循環器医師3人、看護師1人、臨床工学士1人、学生ボランティア1人

合計6人

日程＝9月18日～9月23日

内容と成果＝

9月19日からの2泊3日の日程でダルハンオール県の地方検診を実施しました。県庁所在地のダルハンは社会主義時代に工業地区として開発された、ウランバートルに次ぐ第2の都市です。ウランバートル到着翌日に現地へ車で向かい、その日の午後から県立中央病院で検診を開始しました。病院の玄関では病院関係者、県庁関係者が旗をもって出迎えてくださいました。事前の広報も行き届いていて、約2日間の診察時間で201人の患児さんが待ち受けていました。



検診中、ダルハン TV、ダルハン新聞の取材がありました。11月のカテーテル治療に合致する患児さん2人はそのまま11月に実施のカテ第2班に引き継がれました。5月から調子の悪かったポータブルエコー機ですが、動いたり止まったりを繰り返すような作動状況でした。母子保健センターからはバトウンドラル医師、現地NPOからはフレルボルドー君、アマラーさんが同行しました。ダルハン出身の名士であるガンバートル氏がこの回の現地旅費を負担してくださいました。

ウランバートルへ戻った9月21日の午後、国立母子保健センターで11月の治療を待つ患者さんを含む48人のエコー検診を行いました。

○ 11月モンゴル渡航治療支援事業（カテ第2班）

渡航人員＝小児循環器医師7人、麻酔科医師2人、看護師1人、事務局1人 計11人

日程＝11月20日～11月27日

内容と成果＝

11月のカテ第2班は133件の心エコー診断を実施。治療は動脈管開存（PDA）が17人、肺動脈弁狭窄（PS）が5人の計22人、診断カテーテル5例という結果でした。

11月初めに発覚したモンゴル厚生省汚職事件の影響で、各種申請が一時的にストップしてしまい、11月の活動が危ぶまれましたが、これまでのHSPの活動を知る窓口職員の方々の努力でHSP到着予定前日の「19日にはすべての許可が下りました。

カテーテル対象の患者さんは重症な方が多めでした。



日本とモンゴルの医師が協力して取り組む



治療を受けた患者さんを翌日回診する富田副理事長

カテーテル実施は 22 日～25 日の 4 日間の日程でしたが、25 日は夜になっても終わらず、その様子を見た患者さんの親御さん何人かでお金を出し合っぴピザを買って来てくださいました。それを休憩室で交代でいただきながら治療に励みました。夜半に、予定していたすべてのカテーテル治療が終了。大変な一日でしたが、現地の母子保健センターの医師らは日本の医師の、技術と気持ちのレベルの高さに改めて感銘を受けたとのこと。

例年 11 月は相当寒いのですが、特に今回は、昼の気温おおよそマイナス 20 度ほど、夜の気温マイナス 30 度ほどと非常に寒かったため、風邪を引くなど体調を壊す人が続出しました。

11 月の活動では、国立第三病院にはカテーテル治療を待っていた患者さんはいませんでした。



治療を受けた患者さんと HSP スタッフ一同



外は日中でもマイナス 20 度。後ろは母子保健センター

通常帰国前日のカンファレンスのあとは自由時間としていますが、HSP がモンゴルに来ていることを聞きつけたウランバートル第 1 産科病院から支援依頼が来て、急きょ理事の片岡功一医師を始め数人の医師が依頼先の病院へ向かう、といったアクシデントがありました。患者さんは妊娠高血圧症候群の診断を受けた 7 か月の妊婦さんでした。ポータブルエコー機を持参しましたが、第 1 産科病院には日本からの寄付で胎児超音波診断装置がありました。現地医師らは使い方がわからないのでそのまま放置していたそうです。

HSP の医師がこれを用いて診断をし、あくまでもアドバイスというかたちで第 1 産科病院院長に治療方針を示したところ、院長はそれを受け入れてくださいました。その後 1 月 1 日に無事出産となったそうです。帰国前までこのような次第で、町を見る時間もなくモンゴルを後にすることとなりました。

○12 月副理事長が急きょ渡航

2015 年 12 月 12 日・13 日の 2 日間の日程で、産経新聞社 明美ちゃん基金の適応が可能かを診断するため富田英副理事長が急きょモンゴルへ向かいました。テンギス君は「完全大血管転位症」と診断され、12 月 14 日に来日。そのまま東京女子医科大学病院に入院し、12 月 25 日に 1 回目の手術を、1 月 27 日に 2 回目の手術を受けました。その後元気になってご両親と共に 2 月 27 日にモンゴルへ帰国しました。

2. 広報活動

○ モンゴルでのマスメディア

2014年11月のカテ第2班活動の際に取材に来ていたC1テレビ局ですが、30分間のドキュメント番組を2015年1月12日に放送したそうです。この番組は大変好評で、2015年11月までの1年間で4回再放送されたそうです。

○ ハートセービングプロジェクトのHPリニューアル

HTMLがわからなくても更新できるものにするべくホームページデザイナーにリニューアル版を依頼しました。これで大幅なデザイン変更以外は事務局で更新ができるようになりました。適宜更新していますので、みなさまぜひご覧ください。また、これを機に公式フェイスブックとツイッターも始めました。

○ 「同行記」をジャーナリスト西嶋大美氏が書いてくださいました

これはハートセービングプロジェクトの公式HPで読むことができます。ジャーナリストの視点でのレポートは、専門外の人間にもHSPの活動を大変わかりやすく伝えています。

○ 東京・銀座の日動画廊にて2015年12月23日から27日の会期で開かれた「Two World 日馬富士&Zaya展」が開かれました。日動画廊様のご協力でご協力で会場に募金箱を設置していただき、会期中253,445円が集まりました。また日馬富士関はこの展覧会での彼の絵の売り上げから絵画展開催にかかった経費を除いてHSPへ寄付してくださいとのこと。3月大阪場所の途中にも関わらず連絡があり、近いうちに寄付金を入れていただけることになりました。来期のHSPの活動への弾みとなりそうです。



記者会見の席で富田副理事長がスピーチ



左から白鳳関、画家ザヤさん、日馬富士関、鶴竜関

3. 救急車・消防車輸送事業

2015年8月18日 福井県鯖江市丹生消防組合からアルハンガイ県ハンガイ村中央病院へ寄贈された救急車1台が現地に到着し、受け渡し式が行われました。事務局の宇佐美が立ち会いました。

2016年2月27日 福井県鯖江市丹生消防組合からウヴルハンガイ県立中央病院へ救急車1台が寄贈されることとなり、丹生消防本部で贈呈式が行われました。



2015年3月8日の日本福井県鯖江での贈呈式



モンゴルでの鯖江の救急車 贈呈式

4. 教育活動事業

○2016年2月22日 国立母子保健センター小児循環器科バヤルマー医師が6か月間の予定で愛媛大学大学院医学系研究科地域小児・周産期学講座にて臨床修練医として現場研修を受けるため来日しました。

平成27年度モンゴル渡航治療活動に参加された方々からの声

以下、平成27年の活動に参加された方々からの報告が届いていますのでご紹介させていただきます。

5月参加から

HSP 渡航医療参加の感想

島根大学 麻酔科
麻酔科 片山 望

今回、初めて HSP のカテーテル治療班に参加させていただきました。私は卒後7年目の麻酔科医で小児心臓麻酔に関わり初めてようやく1年が過ぎた頃でした。初めての国、知らない病院で先天性心疾患の子供たちに安全に麻酔ができるかととても不安な気持ちでの参加だったのを覚えています。しかし、小児循環器内科の先生方のモンゴルの子供たちの治療をしようという強い思いや、我が子を思う家族の思いに触れる度にそんな不安は消え、この子供たちのために自分に出来ることをやろう！という気持ちになりました。麻酔器や薬剤など日本とは違う環境での麻酔は、驚きの連続で戸惑うことも多かったです。一緒に参加した先生方や母子保健センターの医師、また HSP モンゴリアのスタッフに支えられ、カテーテル治療のお手伝いことができました。モンゴルで出会った子供たちの笑顔を忘れることなく、今後も何らかの形で HSP の活動に関わって行ければと思っています。

HSP 渡航医療に医師として参加して

東邦大学医療センター大森病院
小児科 矢内 俊

私が医学部を受験した理由は社会、経済的な理由で医療を受けることのできない、特に発展途上国子どもたちに医療を提供することであった。そして私と HSP との関係は 2005 年にさかのぼる。その前年の渡航医療に参加した先輩に羽根田先生を紹介してもらい、島根に押しかけ、その年の夏の渡航医療に参加させてもらったのであった。医学部の 5 年生として先天性心疾患について知っていることといえ、教科書とブラックジャックに出てくることくらい。もちろん事前学習はしたがエコーの所見も分からなければ心電図もちんぷんかんぷん、循環器小児科の実習としてはとても難しかった。それでもモンゴルという国に生きる子どもたちに直接ふれあう機会を与えられたこと、一口に困っている人を助けるといってもニーズは人それぞれということを知る機会を与えられただけでもとてもありがたかった。この時は、何一つダイナミックな出来事はなかったが、経験させてもらった日々のことはいまでもはっきりと覚えている。

私はその後医学部を卒業、臨床研修医を経て小児科医となった。毎年の年賀状でモンゴル行きをお誘いいただくもかなわず、人並みに毎日を過ごすので精一杯であった。それに、小児科医としてもまだ経験不十分な身でプロジェクトの役に立つとは到底思えなかった。2012 年 4 月に東邦大学医療センター大森病院小児科へ異動。相変わらず過酷な毎日ではあったが小児循環器の患者さんの診療にも数多く関わる機会を得、2015 年 5 月、9 年目の医師として実に 10 年ぶりに HSP の渡航医療に参加した。

ウランバートルには夜到着したが、昔は周りになにもなかった空港の目の前にまでマンションがあるのには度肝を抜かれた。新聞である程度のことは見知っているつもりであったが、見ると聞くとは大違いだなあ、と思った。しかし翌日明るくなってみて、まあそうでもないな、とも思った。ビルや車は格段に増えたかもしれないし、どこでも Wifi が使えるようになっているけれど、やはり空は広い。ステップ気候特有の植生で、見渡す限りの草原が広がり樹木はほとんど見えない。入り口が極端に狭く、迷路みみたいな病院の構造も変わらない。

カテーテル治療に先立って患者さんの診察とエコー検査。日に焼けた顔立ちの親子連れを眺めるにつけ、やっとモンゴルに戻って来られたと実感したが、そんなひまはない。

まだ一日の最高気温が一桁代の肌寒い 5 月のモンゴル、子どもたちの服装は完全防寒。手早く服を脱がせ、できるだけ泣かせないように、できるだけ泣き出す前に診察とエコー検査を進める。泣いてしまったら仕方がない、息継ぎのタイミングに集中して所見を取る。あやすのにお乳(おっぱいのこと)を飲ませる親御さんが多くいらしたがるほどこれで半分くらいの子は静かになるのだから大したものだ。

今年のカテーテル治療は 5 月 3 日から 5 日の 3 日間で行われた。こどもの心臓カテーテル治療では全身麻酔が必要となることが多く、たとえば日本の私たちの病院では特別に多い日で 1 日 5 件、平均的には 1 日 3 件のペースで処置を行うが、渡航医療団がモンゴルにいられる時間はきわめて限られている。

5月3日は6件、4日は7件、5日は9件に心臓カテーテル検査や治療、とくに動脈管開存症の治療を行った。全身麻酔の管理は麻酔科に任せ、小児科医はカテーテル治療に集中する。日本人とモンゴル人で交代にローテーションをしながらカテーテル治療を行う術者をつとめ、他の者で機械出しと記録を担当した。

一人一人の患者さんのカテーテル所見は、事前の見立てと合致していることもあればそうでないこともある。我々はそのことにも一喜一憂するが、このプロジェクトで重要なことは、素早く動脈管の太さを画面上で測り、短い時間で動脈管にあてがう治療器具の大きさを決めることだ。

準備に数分、体内での展開に数分。治療器具を注意深く展開するが、その時に不都合がないかどうかの確認は常に大変なストレスだ。心臓カテーテル室には複数のモニターが置いてあるが、そのうち左半分には様々な向きから撮影したレントゲン画像、右半分には現時点での心電図やカテーテル先端の血圧などの数値が示されている。動脈管閉塞の処置を行うときには、左目で正しい場所で器具が展開されるのを見届けながら耳で心拍リズムに異常がないことを確認し、さらには右目で心電図異常や想定外の肺動脈圧になってはいないかどうかを確認する。このうちひとつでも異常があれば処置は当然やり直し、無事に展開された後も数分は器具をカテーテルから切り離さずに様子を見る。異常が起こらなければその場にいる全員で確認をして器具を切り離し、治療は終了となる。カテーテル一式を体内から外しながら患者さんを回復室へ送る。その間にカテーテル室を大急ぎできれいにして次の患者さんの受入準備を行う。

処置の間隔が短く、またモンゴル側医療団とのやりとりは通訳を介さなければならない。やっていることがら自体は普段、日本で行っていることと変わりが無いはずなのにひどく疲れる。一日に予定されているカテーテルが終わったら回診、片付け。先天性心疾患のカテーテル治療では、体内の血液の周り方が大きく変わるので治療後も気が抜けないが、患者さんが落ち着いているとほっとする。

夕食を終えてホテルに戻る時には日付が変わっていることもある。倒れ込むように眠り、次の朝が来る。我々の渡航医療団の生活はこれの繰り返しが基本だ。予定に余裕があれば少し観光ができることもあるけれど、それはその時の運任せ。時に、予定外の患者さんの診察や治療が必要になったりすることもあるが、それもまた楽しい。

先天性心疾患の治療の一番の醍醐味は、患者さんの全身状態をがらりと良くし、徐々に進行する心不全を食い止めることにある。私たちの治療を通じて、一人でも多くの患者さんに笑顔をもたらすことができるよう、今後とも日本で全力を尽くし、またモンゴルでも全量を尽くしたい。

11月参加から

HSPの活動に参加して(2回目)

富山大学小児科

伊吹圭二郎

2015年11月、カテーテル治療班として、2回目のHSP活動へ参加させて頂きました。人生2回目のウランバートル訪問でしたが冬のモンゴルは初めてで、空港を出た瞬間の凍てつく空気に思わず「寒いっ！」と一言。

前回の参加は2014年でしたので、わずか1年半の間でカテ室は母子保健センターの新しい部屋に変わり、透視の機器も普段自分が使うものよりも新しいものになり、見違えるような環境で治療を行うことが出来ました。

しかしながら現状では、「限られた医療資源」という状況は当然すぐには変わることなく、その中で最善・最良の医療を行うという姿勢から多くのことを学びました。特に今回は、PDAのoccluderがAo側に脱落し、その回収を富田先生、檜垣先生、片岡先生という日本代表選抜チームのような先生方が試行錯誤されながら回収するという貴重な状況を体験することができ、その中で行われるディスカッション、判断、選択が大変勉強になり、貴重な経験となりました。また、動脈管開存症、肺動脈弁狭窄とも日本では経験することがないような重症の症例が多く、カテーテル治療を受けることで彼らの人生が大きく変わる瞬間に立ち会い、患者さんとご家族の治療後の笑顔や感謝の言葉からは、少し忘れかけていた医者としての使命感を再確認することが出来ました。モンゴルの子供達の未来を開くために、少しでもお手伝いが出来たのであれば嬉しいです。

2回目のモンゴルも多くの学びと大きな刺激をもらい、自分を見つめ直す良い経験が出来ました。今後も自分のできる範囲でHSPの活動に協力していきたいと思います。

次年度の渡航治療活動への参加を検討されている方々へ

- **一時資格免許の取得について** ～証明写真は無背景・正面でお願いします～

渡航治療活動参加が決まった際に事務局へ提出していただく各種書類は、モンゴルで医療活動を実施するための一時資格取得に必要なものです。書類の期限切れにご注意ください。また、顔写真は必ず3か月以内に撮影した**証明写真（無背景、正面）**でお願いします。使用サイズは4.5cm×3.5cmです。一時資格免許が下りなかった場合、現地での活動には参加できませんので何卒よろしくお願い致します。

- **パスポートの有効期限を確認しましょう**

渡航が決まったらすぐにパスポートの有効期限を確認してください。パスポートの更新は最大で2週間ほどかかります。一時資格免許の取得にも有効期限付きのパスポートが必要です。

- **医師派遣依頼書について** ～事務局へのご連絡はお早めに！～

勤務先へ提出される必要のある方はなるべくお早目に事務局までご連絡下さいますようお願い申し上げます。

- **医薬品等について** ～内容の2か月前申請が必要です！～

モンゴル国内への医薬品、医療関係品の持ち込みは2011年に法改正されており、事前に持ち込み品リストを提出していなければ課税されます。医薬品・医療関係品の調達をされている方には大変なご負担ではありますが、活動開始の2カ月前にはモンゴル国関税庁へリストを提出しなければなりませんので、何卒ご協力の程宜しくお願い致します。申請に必要な内容については別途事務局までお問い合わせください。

- **ミアットの手荷物超過料金について**

ミアットモンゴル航空はHSPの活動について大変ご理解をいただいております。特に現日本支店長の御尽力により、事前の申請書提出により超過手荷物料金（エクセス）を50%OFFにいただいております。持込荷物は渡航と同日ではなく、比較的空席の多い日に先行して荷物のみを送ることもありますので、事務局まで事前にご相談ください。

- **旅先でのトラブルを避けるために**

近年現地では邦人を狙った犯罪が多発しています。十分に身の回りの持ち物に気を付け、飲酒は控えめにしましょう。また夜間の単独での外出は絶対にお控えください。チケットをご自身で手配される方は、紛失・変更の対応を事務局が行うことができるよう事前にEチケットを事務局まで添付ファイルでお送りください。

平成 26 年度の会計財産目録と平成 27 年度の会計財産目録

科目	平成 26 年度	平成 27 年度
現金	162,555 円	194,457 円
貯蔵品(切手)	6,300 円	11,234 円
普通預金三菱東京 UFJ 銀行	568,112 円	2,411,994 円
普通預金 ゆうちょ銀行	1,021,131 円	0 円
普通預金 三井住友銀行	2,055 円	1,165,200 円
郵便振替口座	1,339,000 円	185,000 円
未収金	0 円	355,259 円
	3,099,153 円	4,323,144 円

正味財産の増減および当期経常増減額はプラス 1,223,991 円でした。

平成 27 年度末の財産のうち指定正味財産(使用目的が限定された寄付金額)は 1,165,200 円で、これは救急車輸送事業の輸送費目的限定です。

平成 27 年度末の未収金は Chonogol 社の 2015 年 11 月モンゴルで納品されなかった医療関係品過払金で、2016 年 2 月 29 日に現地より日本へ向けて送金され、2016 年 3 月 3 日に入金を確認されました。

科目		平成 27 年度事業計画金額	平成 27 年度事業報告金額	
収入の部	会費収入	700,000 円	821,000 円	
	寄付金収入	9,800,000 円	10,400,069 円	
	助成金等	0 円	0 円	
	前期未収金	0 円	355,259 円	
	受取利息	0 円	402 円	
	小計	11,800,000 円	11,576,730 円	
	モンゴルでの物的サービスの受入	2,500,000 円	1,846,866 円	
	日本での物的サービスの受入	1,650,000 円	3,982,033 円	
	物的サービスの受入合計	4,100,000 円	5,828,899 円	
収入合計		14650,000 円	17,405,629 円	
支出の部	事業費	現地で支援する活動	7,750,000 円	2,043,879 円
		日本で支援する活動	7,670,000 円	11,688,353 円
		教育事業	500,000 円	166,799 円
		救急車輸送事業	0 円	569,748 円
		日本で広報する活動	650,000 円	788,146 円
	事業費合計	16,570,000 円	15,256,925 円	
管理費合計		1,100,000 円	924,713 円	
支出合計		17,670,000 円	16,181,638 円	

平成 27 年度 事業別経費

平成 27 年 3 月 1 日から平成 28 年 2 月 29 日まで(施設等受入評価額含む)

事業名	内容	実施日時	実施場所	従事者数	支出額 (万円)
国外 支援 事業	モンゴル国カテーテル治療渡航事業～春ウランバートル	2015.4.27～5.8	国立母子保健センター、国立第三病院	80 人	1,728,445円
	モンゴル国地方検診渡航事業～春スフバートル県	2015.4.28～5.1	スフバートル県立中央病院	60 人	295,237円
	モンゴル国地方検診渡航事業～春ゴビスンベル県チョイル	2015.5.2～5.3	ゴビスンベル県立中央病院	40 人	73,171円
	モンゴル国地方検診渡航事業～9 月ダルハンオール県	2015.9.18～9.23	ダルハンオール県立中央病院	40 人	337,492円
	モンゴル国大統領令夫人への団体紹介および挨拶訪問	2015.8	ウランバートル市内	10 人	80,672円
	モンゴル国カテーテル治療渡航事業～11 月ウランバートル	2015.11.20～11.27	国立母子保健センター	80 人	1,375,728円
	救急車輸送事業	2015.3.1～2016.2.29	ウランバートル、アルハンガイ県	40 人	0円
国内 支援 事業	平成 27 年度使用医療関係消耗品手配・購入	2015.3～2016.2	東京	20 人	4,888,573円
	医療関係消耗品寄付	2015.3～2015.11	東京	20 人	2,316,143円
	渡航事業のエアチケット A	2015.3～2015.11	出雲	5 人	385,390円
	渡航事業のエアチケット B	2015.3～2015.11	東京	5 人	1,843,622円
	上記を除く渡航事業支援活動	通年	東京	30 人	407,759円
	教育事業	2015.3～2016.2	東京・愛媛県	20 人	166,799円
	救急車輸送事業	通年		10 人	569,748円
国内 広報 事業	(1) 年間広報ツールの発送	通年	東京	20 人	462,146円
	(2) ホームページリニューアル・維持費	年複数回	東京	30 人	326,000円
現地 支援事業 事業費総額					3,890,745円
国内 支援事業 事業費総額					10,578,034円
国内 広報事業 事業費総額					788,146円
管理費経費					924,713円
合計					16,181,638円

平成 27 年度活動計算書資料

1. 平成 27 年度収入の内訳

会費	821,000円
寄付金	10,400,069円
施設等評価益	5,828,899円
受取利息	402円
未収金（過払金）	355,259円
	17,405,629円

2. 施設等受入評価益

施設等受入評価益とは、「無償又は著しく安い価格での施設の提供等物的サービス」のことで、以下の記載分はそのうち「客観的裏付けのある金額計算」されたものです。

なお、施設等受入評価益記載の寄付につきましては、原則、所得税・法人税控除の対象とはなりません。今後、所得税・法人税控除の対象としたい場合がありますら、国税局に個別に相談いたしますのでお申し出ください。

提供者名	金額	内容
NPO法人Zurukh Khamagaalakh Tusul (通称HSPモンゴル)	73,171	地方検診ゴビスンベル1泊2日旅費交通費、 先方見積書
Badaltuya 様	267,073	地方検診スフバートル3泊4日旅費交通費、 先方見積書
Bayangol Hotel	881,281	88泊分宿泊費、Bayangol Hotel様との契約書
Bayangol Hotel	80,672	8泊分宿泊費、Bayangol Hotel様との契約書
Ganbaatar様	283,613	地方検診ダルハンオール2泊3日旅費交通費、 先方見積書
Bayangol Hotel	261,056	24泊分宿泊費、Bayangol Hotel様との契約書
モンゴル国内 物的サービスの受入合計	1,846,866	
(株)東海メディカルプロダクツ	600,000	小児用バルーン 標準小売価格表
エーザイ株式会社	322,770	医薬品 標準小売価格表
どれみクリニック基常小児科福代皮膚科	7,901	医薬品 標準小売価格表
どれみクリニック基常小児科福代皮膚科	3,100	医薬品 標準小売価格表
(株)東海メディカルプロダクツ	750,000	小児用バルーン 標準小売価格表

エーザイ株式会社	322,770	医薬品 標準小売価格表
羽根田紀幸理事長	74,041	医療消耗品 見積書、請求書
檜垣高史理事	96,082	医療消耗品 見積書、請求書
宇佐美写真事務所	270,000	ホームページ作成料、領収書コピー
日馬富士関	157,500	相撲番付1200枚、相撲カレンダー130部 大相撲協会の規定料金による
朝赤龍関	45,000	相撲番付300枚、相撲カレンダー40部 大相撲協会の規定料金による
旭天鵬関相撲番付40枚、	32,000	相撲カレンダー40部 大相撲協会の規定料金による
羽根田紀幸理事長 エアチケット代金	385,390	予約プリント画面
羽根田紀幸理事長	139,479	2015年GW使用医療消耗品 請求書
エンフグジル バヤサル様 HPドメイン料	26,000	支払者からの金額提示による
宇佐美写真事務所 事務所家賃	720,000	契約書による
日本国内物的サービスの受入合計	3,952,033	
国内外合計	5,78,899	

※Bayangol Hotel (バヤンゴルホテル) 様とは2015年に契約を結びました。上限1万ドルまで無料宿泊、それを超えた額については両者間で取り決めた金額(通常よりかなり値引きした金額です)を支払うことになりました。

3. 以下のみなさまは金額の提示がなく物的サービスを提供された方々です

NPO会計基準では、客観的裏付けのない施設等受入評価益は計上できないこととなっていますが、以下の方々には「内容」の無償提供をしていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

日付	提供者名	内容
2015/5/2	Oyuntuya 夫妻	参加スタッフ全員の夕食代
2015/5/3	NPO法人Zurukh Khamagaalakh Tusul(通称HSPモンゴル)	500例記念の会 参加費差額分
2015/5/5	Oyuntuyaさんの友人で自動車ディーラーの Boldkhuu 氏	参加スタッフ全員の夕食代
2015/5/6	2014年に心カテーテル治療を受けた Ameldene ちゃんのご両親	参加スタッフ全員の夕食代
2015/11/21	過去に心カテーテル治療を受けた Boyantoktokh 君のご両親	参加スタッフ全員の夕食代
2015/11/22	過去にお子さん心カテーテル治療を受けたお子さんのご両親 3組	参加スタッフ全員の夕食代
2015/11/23	Oyuntuya 夫妻	参加スタッフ全員の夕食代
2015/11/24	この11月に心カテーテル治療を受けた Minkhbat 君のご両親	参加スタッフ全員の夕食代
2015/11/25	待合室で心カテーテル治療の終了を待っていた方々	出前のピザ

平成 28 年度事業計画資料

(1) 5 月検診班

行先はオブス県 (UvsAimag) ウランゴム (Ulaangom)。2013 年 5 月検診に行きました。再訪です。ウランバートルから 1400km 以上離れていますので、国内線のエアライン利用で 2 泊 3 日の予定です。日程と最終メンバーは調整中です。

(2) 前期カテ班

5～10 月のあいだに前期のカテ班を実施します。現在、モンゴルの国立母子保健センターと今後の治療と教育について調整を図っています。今までと仕組みを変化していく必要が生じているのは、モンゴルでの小児循環器医療が自立に向けて大きく動いていることの現れです。国立の機関であるため、総選挙の 6 月以降に体制や方針の変わる可能性もありますので、それを過ぎてから再度調整を図り、合意ののち改めて活動を開始いたします。

そのため、今期の第 1 回のカテ班の時期は追々話し合いの経過を見てからの決定となります。

(3) 9 月検診班

フブスグル県、ブルガン県、セレンゲ県が候補として挙がっております。6 月の総選挙後に現地でのスポンサー募集を行い、そこで最終決定いたします。

(4) 後期カテ班

11～翌 1 月のあいだに後期のカテ班を実施します。これまで通りの大規模グループで実施するか少人数制にするか、また日程および日数については今後の国立母子保健センターとの調整次第で今期中に決定してまいります。

(5) 救急車輸送事業

すでに贈呈式が国内で終了いたしました 2 案件の救急車は今期中に現地へ輸送が行われます。

新たに 3 月 29 日に広島市消防本部で救急車贈呈式が行われます。

(6) 教育事業

2016 年 2 月 22 日、モンゴル国立母子保健センター小児循環器科バヤルマー医師が来日しました。檜垣高史理事の元で約半年の期間、臨床修練医として現場研修を受けます。

モンゴルはインフレが急速に進んでいます。また中国経済の悪化のあおりで経済が大変悪くなっています。タクシー、ガソリン、ミネラルウォーター、外食等は日本より絶対的価格が高くなっており、国内線エアチケット、レンタカー等は日本とほぼ変わらない金額です。そのため現地での活動費全般が膨らんでおります。

平成 28 年度活動予算資料

平成 27 年度 繰越額		4,323,144 円
	会費収入見込額	82 万円
	寄付金見込額 (国内)	990 万円
	物的サービス等受入見込額(国内)	160 万円
	物的サービス等受入見込額 (現地)	220 万円
収入見込合計		1,452 万円
国内支援事業 585万円	(1) 検診・カテーテル班 4～9 月 渡航者エアチケット代金 渡航人員 20 人	220 万円
	(2) 検診・カテーテル班 10～2017 年 1 月 渡航者エアチケット代金 渡航人員 20 人	200 万円
	(3) 現地使用の医薬品	100 万円
	(4) 国内交通費+車両関係費	30 万円
	(5) 国際通話料金	30 万円
	渡航関係事務用品費	5 万円
現地支援事業 715万円	現地での物的サービス(宿泊)	120 万円
	現地での物的サービス(地方検診旅費一式)	100 万円
	現地宿泊費(支払分)	30 万円
	外注費	15 万円
	医師免許等事務手数料および関税	60 万円
	出張旅費(食費、水等)	100 万円
	現地調達医療消耗品費	240 万円
	その他(車両関係費、交通費、通信費ほか)	50 万円
教育事業	モンゴル・日本の往復交通費、日本滞在費(3ヶ月)	50 万円
国内広報事業	印刷物作成・郵送料など(施設等評価益含む)	80 万円
救急車輸送事業	救急車輸送費	176 万円
管理費	前年度と同様の内容として	110 万円
支出見込額合計		1,716 万円
次期繰越予定額		168 万円